

## 東京講演会を開催

10月5日に東京の有楽町朝日ホールにおいて、「第11回東京講演会」を開催しました。この東京講演会は、奈良文化財研究所の日頃の活動や調査・研究成果を、広く東日本の方々に紹介することを目的として2010年から始めた企画です。

去年は「藤原から平城へー平城遷都の謎を解く」と題して、天武・持統天皇が国家の威信をかけて造営した律令国家建設のシンボルであった藤原京がわずかに16年の短命に終わった理由やなぜ平城の地に遷都したのかといった謎に迫りました。

今年はそれに引き続き、「奈良の都、平城宮の謎を探る」と題して遷都後の平城宮の謎に迫ることとし、奈文研の6名の研究員が「平城の地はどのように選ばれたか?」、「平城宮のモデルは唐の都長安城か?」、「平城宮はどのように作られたのか?」、「平城宮の東院とはどういう施設か?」、「施釉瓦・陶器の出土は何を示すか?」、「平城宮で即位した天皇の大嘗宮は?」といった様々な観点から最新の調査研究成果を紹介しました。その後、6名の研究員にコーディネーターをくわえてのパネルディスカッションがおこなわれ、平城宮跡の今後の調査研究課題を論議の的とし、「まだまだある平城宮の謎」の解明に向けた各研究員の意気込みが熱く語られました。

当日は464名の方の来場があり、10時から16時にわたる長丁場の講演会でしたが、メモをとりながら熱心に聴き入る方も多く見受けられ、大盛況のうちに終了しました。なお、東京講演会には、毎回多数の方にご来場をいただいております。あらためて御礼申し上げます。（研究支援推進部 貴村 好隆）



会場の様子